

# 医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

前立腺肥大症・癌治療剤

## クロルマジノン酢酸エステル錠 25mg「日医工」

Chlormadinone Acetate

剤形	素錠
製剤の規制区分	処方箋医薬品（注意-医師等の処方箋により使用すること）
規格・含量	1錠中クロルマジノン酢酸エステル 25mg を含有する。
一般名	和名：クロルマジノン酢酸エステル 洋名：Chlormadinone Acetate
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日	承認年月日：2013年2月15日 薬価基準収載：2013年6月21日 発売年月日：2013年6月21日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：日医工株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	日医工株式会社 お客様サポートセンター TEL：0120-517-215 FAX：076-442-8948 医療関係者向けホームページ <a href="http://www.nichiiko.co.jp/">http://www.nichiiko.co.jp/</a>

本IFは2013年6月作成（第1版）の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器総合機構ホームページ

<http://www.pmda.go.jp/>にてご確認下さい。

## IF利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

### 1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IFと略す）の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会においてIF記載要領2008が策定された。

IF記載要領2008では、IFを紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-IFが提供されることとなった。

最新版のe-IFは、(独) 医薬品医療機器総合機構のホームページ (<http://www.pmda.go.jp/>) から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IFを掲載する医薬品情報提供ホームページが公式サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせてe-IFの情報を検討する組織を設置して、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF記載要領の一部改訂を行いIF記載要領2013として公表する運びとなった。

### 2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

#### 【IFの様式】

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

#### 【IFの作成】

- ①IFは原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領2013」（以下、「IF記載要領2013」と略す）により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

## **【IFの発行】**

- ①「IF記載要領2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF記載要領2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

### **3. IFの利用にあたって**

「IF記載要領2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。

また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

### **4. 利用に際しての留意点**

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月改訂)

# 目 次

<b>I. 概要に関する項目</b> .....	1	<b>VII. 薬物動態に関する項目</b> .....	11
1. 開発の経緯 .....	1	1. 血中濃度の推移・測定法 .....	11
2. 製品の治療学的・製剤学的特性 .....	1	2. 薬物速度論的パラメータ .....	12
<b>II. 名称に関する項目</b> .....	2	3. 吸収 .....	12
1. 販売名 .....	2	4. 分布 .....	12
2. 一般名 .....	2	5. 代謝 .....	12
3. 構造式又は示性式 .....	2	6. 排泄 .....	13
4. 分子式及び分子量 .....	2	7. トランスポーターに関する情報 .....	13
5. 化学名（命名法） .....	2	8. 透析等による除去率 .....	13
6. 慣用名，別名，略号，記号番号 .....	2	<b>VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目</b> .....	14
7. CAS 登録番号 .....	2	1. 警告内容とその理由 .....	14
<b>III. 有効成分に関する項目</b> .....	3	2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む） ..	14
1. 物理化学的性質 .....	3	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由 .....	14
2. 有効成分の各種条件下における安定性 .....	3	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由 .....	14
3. 有効成分の確認試験法 .....	3	5. 慎重投与内容とその理由 .....	14
4. 有効成分の定量法 .....	3	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法 ..	14
<b>IV. 製剤に関する項目</b> .....	4	7. 相互作用 .....	14
1. 剤形 .....	4	8. 副作用 .....	15
2. 製剤の組成 .....	4	9. 高齢者への投与 .....	16
3. 懸濁剤，乳剤の分散性に対する注意 .....	4	10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与 .....	16
4. 製剤の各種条件下における安定性 .....	5	11. 小児等への投与 .....	16
5. 調製法及び溶解後の安定性 .....	6	12. 臨床検査結果に及ぼす影響 .....	16
6. 他剤との配合変化（物理化学的変化） .....	6	13. 過量投与 .....	16
7. 溶出性 .....	6	14. 適用上の注意 .....	16
8. 生物学的試験法 .....	8	15. その他の注意 .....	16
9. 製剤中の有効成分の確認試験法 .....	8	16. その他 .....	16
10. 製剤中の有効成分の定量法 .....	8	<b>IX. 非臨床試験に関する項目</b> .....	17
11. 力価 .....	8	1. 薬理試験 .....	17
12. 混入する可能性のある夾雑物 .....	8	2. 毒性試験 .....	17
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報 .....	8	<b>X. 管理的事項に関する項目</b> .....	18
14. その他 .....	8	1. 規制区分 .....	18
<b>V. 治療に関する項目</b> .....	9	2. 有効期間又は使用期限 .....	18
1. 効能又は効果 .....	9	3. 貯法・保存条件 .....	18
2. 用法及び用量 .....	9	4. 薬剤取扱い上の注意点 .....	18
3. 臨床成績 .....	9	5. 承認条件等 .....	18
<b>VI. 薬効薬理に関する項目</b> .....	10	6. 包装 .....	18
1. 薬理学的に関連のある化合物又は化合物群 ..	10	7. 容器の材質 .....	18
2. 薬理作用 .....	10		

8. 同一成分・同効薬	18
9. 国際誕生年月日	18
10. 製造販売承認年月日及び承認番号	18
11. 薬価基準収載年月日	19
12. 効能又は効果追加, 用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	19
13. 再審査結果, 再評価結果公表年月日及びその内容	19
14. 再審査期間	19
15. 投与期間制限医薬品に関する情報	19
16. 各種コード	19
17. 保険給付上の注意	19
<b>X I. 文献</b>	<b>20</b>
1. 引用文献	20
2. その他の参考文献	20
<b>X II. 参考資料</b>	<b>20</b>
1. 主な外国での発売状況	20
2. 海外における臨床支援情報	20
<b>X III. 備考</b>	<b>20</b>
付表 1—1	21
付表 1—2	22
付表 1—3	23
付表 1—4	24

## I. 概要に関する項目

### 1. 開発の経緯

本剤は、クロルマジノン酢酸エステルを有効成分とする前立腺肥大症・癌治療剤である。

クロルマジノン酢酸エステル製剤の「レコルク錠」は、日医工株式会社が後発医薬品として開発を企画し、規格及び試験方法を設定、安定性試験、生物学的同等性試験を実施し、1987年5月23日に承認を取得、1987年10月1日から販売を開始した。(薬発第698号(昭和55年5月30日)に基づき承認申請)

「レコルク錠」は、1988年9月5日付で「前立腺癌」の効能・効果が追加された。

「レコルク錠」は、2008年1月7日、再評価(品質再評価)の結果、薬事法第14条第2項各号(承認拒否事由)のいずれにも該当しないとの再評価結果を得た。

医療事故防止のため、2009年7月1日に製品名を「レコルク錠」から「レコルク錠25mg」に変更の承認を得て、2009年9月25日から販売を開始した。

医療事故防止のため、2013年2月15日に製品名を「レコルク錠25mg」から「クロルマジノン酢酸エステル錠25mg「日医工」」に変更の承認を得て、2013年6月21日から販売を開始した。

### 2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- (1) 本剤は、クロルマジノン酢酸エステルを有効成分とする前立腺肥大症・癌治療剤である。
- (2) PTPシートはピッチコントロールを行い、1錠ごとに成分名、含量を表示した。
- (3) 重大な副作用(頻度不明)として、うっ血性心不全、血栓症、劇症肝炎、肝機能障害、黄疸、糖尿病、糖尿病の悪化、高血糖が報告されている。

## II. 名称に関する項目

### 1. 販売名

#### (1) 和名

クロルマジノン酢酸エステル錠 25mg「日医工」

#### (2) 洋名

Chlormadinone Acetate

#### (3) 名称の由来

一般名より

### 2. 一般名

#### (1) 和名 (命名法)

クロルマジノン酢酸エステル (JAN)

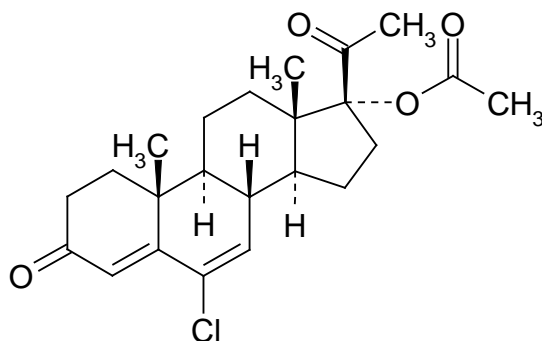
#### (2) 洋名 (命名法)

Chlormadinone Acetate (JAN)

#### (3) ステム

不明

### 3. 構造式又は示性式



### 4. 分子式及び分子量

分子式：C<sub>23</sub>H<sub>29</sub>ClO<sub>4</sub>

分子量：404.93

### 5. 化学名 (命名法)

6-Chloro-3,20-dioxopregna-4,6-dien-17-yl acetate (IUPAC)

### 6. 慣用名, 別名, 略号, 記号番号

別名：酢酸クロルマジノン

### 7. CAS 登録番号

302-22-7

### Ⅲ. 有効成分に関する項目

#### 1. 物理化学的性質

##### (1) 外観・性状

白色～淡黄色の結晶又は結晶性の粉末で、においはない。

##### (2) 溶解性

クロロホルムに溶けやすく、アセトニトリルにやや溶けやすく、エタノール (95) 又はジエチルエーテルに溶けにくく、水にほとんど溶けない。

##### (3) 吸湿性

該当資料なし

##### (4) 融点 (分解点), 沸点, 凝固点

融点 : 211~215°C

##### (5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

##### (6) 分配係数

該当資料なし

##### (7) その他の主な示性値

旋光度  $[\alpha]_D^{20}$  : -10.0~-14.0° (乾燥後, 0.2g, アセトニトリル, 10mL, 100mm)

#### 2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

#### 3. 有効成分の確認試験法

##### (1) 呈色反応

本品をエタノールに溶かし 1, 3-ジニトロベンゼン試液及び水酸化カリウム溶液を加えるとき、液は赤紫色を呈する。

##### (2) 官能試験

本品に水酸化カリウム・エタノール試液を加え、煮沸する。硫酸を加え煮沸するとき、酢酸エチルのにおいを発する。

##### (3) 赤外吸収スペクトル測定法

臭化カリウム錠剤法により試験を行い、本品のスペクトルと本品の参照スペクトル又はクロルマジノン酢酸エステル標準品のスペクトルを比較するとき、両者のスペクトルは同一波数のところに同様の強度の吸収を認める。

##### (4) 炎色反応試験

本品につき、炎色反応試験 (2) を行うとき、緑色を呈する。

#### 4. 有効成分の定量法

紫外可視吸光度測定法




試料溶液及び標準溶液につき、吸光度を測定する。



#### IV. 製剤に関する項目

##### 1. 剤形

###### (1) 剤形の区別, 外観及び性状

販売名	色調 剤形	形 状			本体表示 包装コード
		質量(mg)	直径(mm)	厚さ(mm)	
クロルマジノン酢酸 エステル錠 25mg 「日医工」	白色～微黄色  素錠	 200	 8.0	 3.0	本体：n 967 包装：㊦967

###### (2) 製剤の物性

(「IV-4.製剤の各種条件下における安定性」の項参照)

###### (3) 識別コード

(「IV-1.(1)剤形の区別, 外観及び性状」の項参照)

###### (4) pH, 浸透圧比, 粘度, 比重, 無菌の旨及び安定な pH 域等

該当資料なし

##### 2. 製剤の組成

###### (1) 有効成分 (活性成分) の含量

1 錠中クロルマジノン酢酸エステル 25mg を含有する。

###### (2) 添加物

添加目的	添 加 物
賦 形 剤	乳糖, トウモロコシデンプン
結 合 剤	ヒドロキシプロピルセルロース
崩 壊 剤	カルメロースカルシウム
滑 沢 剤	タルク, ステアリン酸マグネシウム

###### (3) その他

該当記載事項なし

##### 3. 懸濁剤, 乳剤の分散性に対する注意

該当しない

#### 4. 製剤の各種条件下における安定性<sup>1)</sup>

##### (1) 加速試験

本品につき加速試験（40℃，75%RH，6 ヶ月）を行った結果，クロルマジノン酢酸エステル錠 25mg「日医工」は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。

◇ クロルマジノン酢酸エステル錠 25mg「日医工」加速試験 [最終包装形態 (PTP 包装)]

測定項目	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月
性状 <白色～微黄色の錠剤>	HK010 AP310 EP270	適合	同左	同左	同左
確認試験 (定性反応，紫外可視吸光度，保持 時間)	HK010 AP310 EP270	適合	—	—	適合
溶出性 (%) <90 分，75%以上>	HK010 AP310 EP270	100.2～103.2 97.1～ 99.3 99.7～101.9	95.0～101.8 94.1～100.6 97.6～100.1	97.4～103.0 99.1～100.6 97.9～ 99.4	95.6～101.5 97.2～100.2 98.0～ 99.7
含量 (%) * <93～107%>	HK010 AP310 EP270	99.2 100.3 100.0	98.9 99.5 98.5	100.5 98.0 99.3	99.2 98.9 99.6
重量偏差 (%) <15.0%以下>	HK010 AP310 EP270	2.7 1.3 2.0	—	—	1.9 1.0 1.4

※：表示量に対する含有率 (%)

##### (2) 無包装の安定性試験

◇クロルマジノン酢酸エステル錠 25mg「日医工」 無包装 40℃ [遮光，気密容器]

測定項目 <規格>	ロット 番号	保存期間			
		開始時	2 週	1 ヶ月	3 ヶ月
性状 <白色～微黄色の素錠>	BU0801	適合	同左	同左	同左
溶出性 (%) <90 分，75%以上>	BU0801	103.7～106.1	104.3～107.6	105.2～107.3	103.0～104.0
含量 (%) * <93.0～107.0%>	BU0801	100.5	98.4	97.6	98.4
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	BU0801	62	62	63	61

※：表示量に対する含有率 (%)

◇クロルマジノン酢酸エステル錠 25mg「日医工」 無包装 25℃・75%RH [遮光，開放]

測定項目 <規格>	ロット 番号	保存期間			
		開始時	2 週	1 ヶ月	3 ヶ月
性状 <白色～微黄色の素錠>	BU0801	適合	同左	同左	同左
溶出性 (%) <90 分，75%以上>	BU0801	103.7～106.1	102.2～104.2	103.6～107.1	97.9～103.7
含量 (%) * <93.0～107.0%>	BU0801	100.5	99.3	98.5	98.9
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	BU0801	62	48	47	49

※：表示量に対する含有率 (%)

◇クロルマジノン酢酸エステル錠 25mg 「日医工」

無包装 室温, 曝光 [D65 光源, 気密容器]

測定項目 <規格>	ロット 番号	総曝光量			
		開始時	40 万 Lx・hr	80 万 Lx・hr	120 万 Lx・hr
性状 <白色～微黄色の素錠>	BU0801	適合	同左	同左	同左
溶出性 (%) <90 分, 75%以上>	BU0801	103.7～106.1	105.4～107.5	103.0～105.9	104.3～106.8
含量 (%) * <93.0～107.0%>	BU0801	100.5	98.6	98.7	97.8
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	BU0801	62	65	62	65

※：表示量に対する含有率 (%)

本試験は、「(社)日本病院薬剤師会：錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について (答申), 平成 11 年 8 月 20 日」を参考に実施した。

**5. 調製法及び溶解後の安定性**

該当しない

**6. 他剤との配合変化 (物理化学的变化)**

該当しない

**7. 溶出性**

**(1) 溶出規格**

クロルマジノン酢酸エステル錠 25mg「日医工」は、日本薬局方外医薬品規格第 3 部に定められたクロルマジノン酢酸エステル錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

(試験液にラウリル硫酸ナトリウム溶液 (1→250) 900mL を用い、パドル法により 50rpm で試験を行う。)

溶出規格

表示量	規定時間	溶出率
25mg	90 分	75%以上

## (2) 溶出試験<sup>2)</sup>

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について(平成18年11月24日薬食審発第1124004号)

装置：日本薬局方溶出試験法パドル法

回転数及び試験液：50rpm (pH1.2, pH4.0, pH6.8, 水)

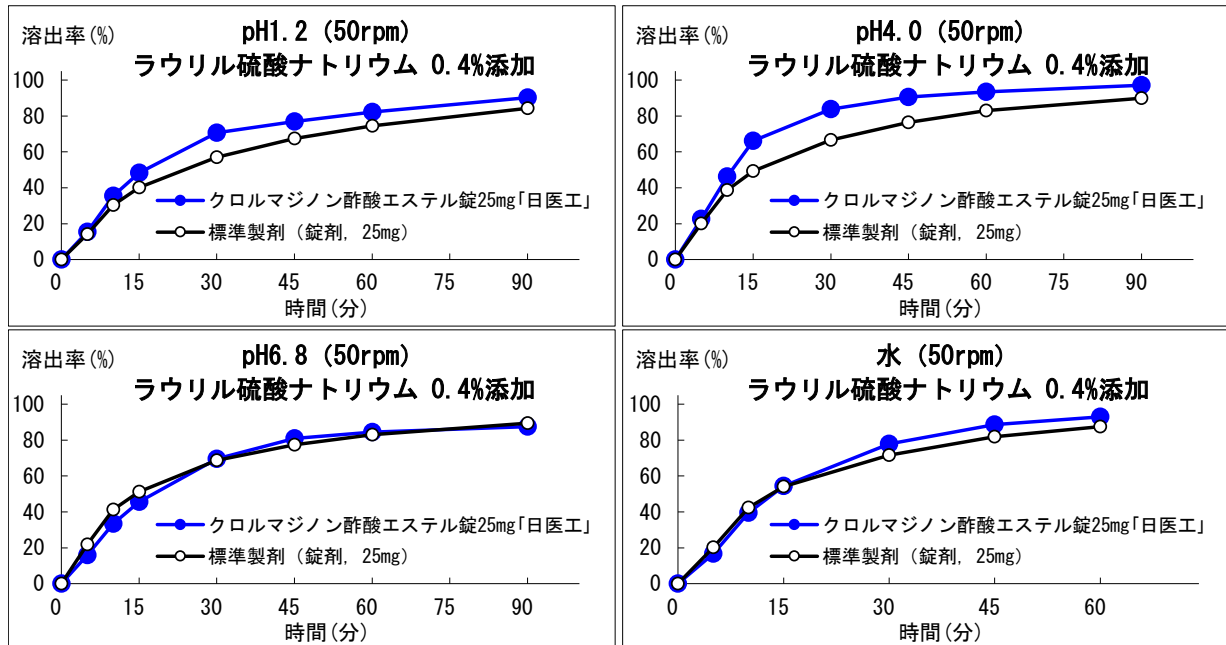
各試験液にラウリル硫酸ナトリウム 0.4%添加

[判定]

- ・ pH1.2 (50rpm) では、標準製剤の平均溶出率が 40%及び 85%付近の 2 時点において、本品の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。
- ・ pH4.0 (50rpm) では、標準製剤の平均溶出率が 40%及び 85%付近の 2 時点において、本品の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。
- ・ pH6.8 (50rpm) では、標準製剤の平均溶出率が 40%及び 85%付近の 2 時点において、本品の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。
- ・ 水 (50rpm) では、標準製剤の平均溶出率が 40%及び 85%付近の 2 時点において、本品の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。

以上の結果より、本品の溶出挙動を標準製剤と比較した結果、すべての溶出試験条件において「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」の判定基準に適合した。

(溶出曲線)



(n=6)

## 8. 生物学的試験法

該当資料なし

## 9. 製剤中の有効成分の確認試験法

### (1) 呈色試験

本品を粉末とし、エタノールを加えて m-ジニトロベンゼン試液及び水酸化カリウム溶液を加えるとき、液は直ちに赤紫色を呈する。

### (2) 紫外可視吸光度測定法

本品を粉末とし、エタノールを加えた液につき、吸収スペクトルを測定するとき、波長 284～286nm に吸収の極大を示す。

### (3) 液体クロマトグラフィー

試料溶液及び標準溶液における内部標準物質の保持時間に対する酢酸クロルマジノンの保持時間の比は等しい。

## 10. 製剤中の有効成分の定量法

液体クロマトグラフィー

検出器：紫外吸光光度計

移動相：メタノール，水混液

## 11. 力価

該当しない

## 12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

## 13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当しない

## 14. その他

特になし

## V. 治療に関する項目

### 1. 効能又は効果

- 前立腺肥大症
- 前立腺癌

ただし、転移のある前立腺癌症例に対しては、他療法による治療の困難な場合に使用する。

### 2. 用法及び用量

- 前立腺肥大症

クロルマジノン酢酸エステルとして、1回 25mg (1錠) を1日2回食後に経口投与する。

- 前立腺癌

クロルマジノン酢酸エステルとして、1回 50mg (2錠) を1日2回食後に経口投与する。

なお、症状により適宜増減する。

### 3. 臨床成績

#### (1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

#### (2) 臨床効果

該当資料なし

#### (3) 臨床薬理試験

該当資料なし

#### (4) 探索的試験

該当資料なし

#### (5) 検証的試験

##### 1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

##### 2) 比較試験

該当資料なし

##### 3) 安全性試験

該当資料なし

##### 4) 患者・病態別試験

該当資料なし

#### (6) 治療的使用

##### 1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)

該当資料なし

##### 2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

## VI. 薬効薬理に関する項目

### 1. 薬理的に関連のある化合物又は化合物群

アンチアンドロゲン剤

### 2. 薬理作用

#### (1) 作用部位・作用機序<sup>3)</sup>

合成黄体ホルモン。黄体ホルモンとしての作用を現す。

#### (2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

#### (3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

## VII. 薬物動態に関する項目

### 1. 血中濃度の推移・測定法

#### (1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

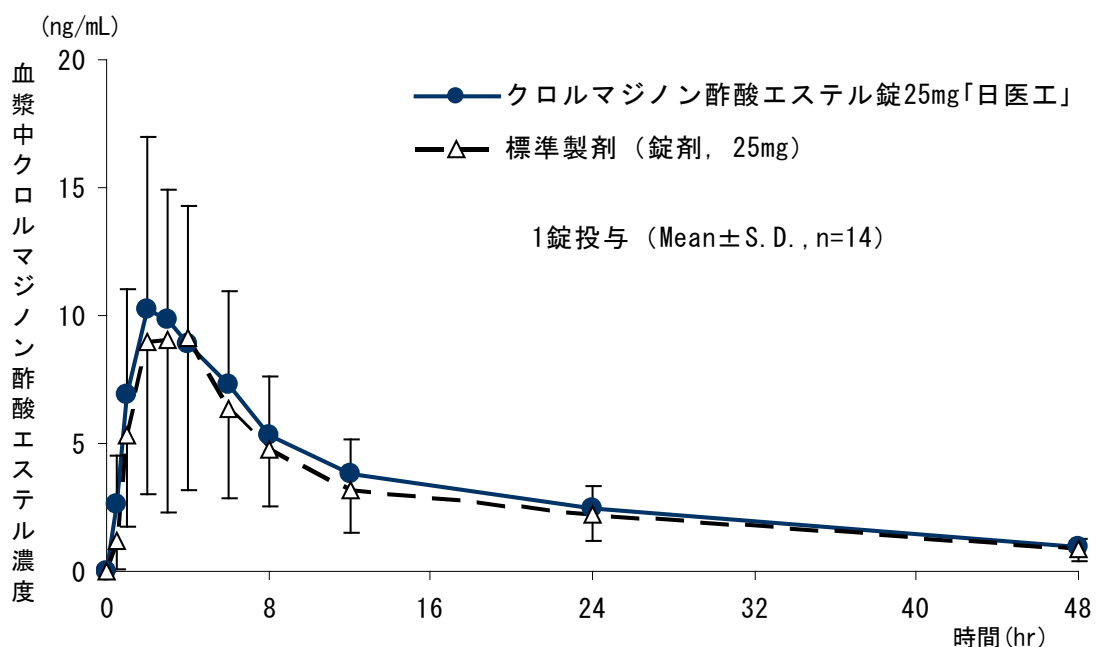
#### (2) 最高血中濃度到達時間

(「臨床試験で確認された血中濃度」の項参照)

#### (3) 臨床試験で確認された血中濃度<sup>4)</sup>

生物学的同等性試験に関する試験基準 (昭和 55 年 5 月 30 日 薬審第 718 号)

クロルマジノン酢酸エステル錠 25mg「日医工」及び標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ 1 錠 (クロルマジノン酢酸エステルとして 25mg) 健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中クロルマジノン酢酸エステル濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ (AUC, Cmax) について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。



[薬物速度論的パラメータ]

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC <sub>∞</sub> (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t <sub>1/2</sub> (hr)
クローラマジノン酢酸エステル錠 25mg「日医工」	186.02 ± 56.27	11.55 ± 7.17	3.1 ± 1.6	19.3 ± 8.4
標準製剤 (錠剤, 25mg)	168.80 ± 69.05	11.17 ± 6.83	3.1 ± 1.6	20.6 ± 11.7

(1 錠投与, Mean ± S.D., n=14)

血漿中濃度並びに AUC, Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。



**(4) 中毒域**

該当資料なし

**(5) 食事・併用薬の影響**

該当資料なし

**(6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因**

該当資料なし

**2. 薬物速度論的パラメータ**

**(1) 解析方法**

該当資料なし

**(2) 吸収速度定数**

該当資料なし

**(3) バイオアベイラビリティ**

該当資料なし

**(4) 消失速度定数**

該当資料なし

**(5) クリアランス**

該当資料なし

**(6) 分布容積**

該当資料なし

**(7) 血漿蛋白結合率**

該当資料なし

**3. 吸収**

該当資料なし

**4. 分布**

**(1) 血液-脳関門通過性**

該当資料なし

**(2) 血液-胎盤関門通過性**

該当資料なし

**(3) 乳汁への移行性**

該当資料なし

**(4) 髄液への移行性**

該当資料なし

**(5) その他の組織への移行性**

該当資料なし

**5. 代謝**

**(1) 代謝部位及び代謝経路**

該当資料なし

**(2) 代謝に関与する酵素（CYP450 等）の分子種**

該当資料なし

**(3) 初回通過効果の有無及びその割合**

該当資料なし

**(4) 代謝物の活性の有無及び比率**

該当資料なし

**(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ**

該当資料なし

**6. 排泄**

**(1) 排泄部位及び経路**

該当資料なし

**(2) 排泄率**

該当資料なし

**(3) 排泄速度**

該当資料なし

**7. トランスポーターに関する情報**

該当資料なし

**8. 透析等による除去率**

該当資料なし

## Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

### 1. 警告内容とその理由

該当記載事項なし

### 2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

#### 【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

重篤な肝障害・肝疾患のある患者 [代謝能が低下しており肝臓への負担が増加するため、症状が増悪することがある。]

### 3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

### 4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

### 5. 慎重投与内容とその理由

#### 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

(1) 心疾患、腎疾患又はその既往歴のある患者 [ナトリウムや体液の貯留により、これらの症状が増悪することがある。]

(2) 糖尿病患者 [耐糖能の低下があらわれることがある。]

### 6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

(1) 劇症肝炎等の重篤な肝機能障害による死亡例が報告されているので、**投与開始後3ヵ月までは少なくとも1ヵ月に1回**、それ以降も定期的に肝機能検査を行うこと。

(2) 前立腺肥大症に使用する場合は次の点に留意すること。

1) 本剤による前立腺肥大症に対する治療は、根治療法ではないことに留意し、本剤投与により期待する効果が得られない場合には、手術療法等他の適切な処置を考慮すること。

2) 投与期間は16週間を基準とし、期待する効果が得られない場合には、以後漫然と投与を継続しないこと。

3) ポテンツ低下等があらわれた場合、治療上の有益性を考慮の上、必要に応じ休薬又は他の療法への変更を行うこと。

### 7. 相互作用

#### (1) 併用禁忌とその理由

該当記載事項なし

#### (2) 併用注意とその理由

該当記載事項なし

## 8. 副作用

### (1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

### (2) 重大な副作用と初期症状（頻度不明）

- 1) **うっ血性心不全**：うっ血性心不全があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- 2) **血栓症**：血栓症（脳，心，肺，四肢等）があらわれることがあるので，異常が認められた場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。
- 3) **劇症肝炎，肝機能障害，黄疸**：本剤投与 1～2 ヶ月後に劇症肝炎，肝機能障害，黄疸があらわれ，死亡に至った症例が報告されているので，投与開始後 3 ヶ月間は少なくとも 1 ヶ月に 1 回，それ以降も定期的に肝機能検査を行い，悪心・嘔吐，食欲不振，全身けん怠感等の異常が認められた場合には直ちに投与を中止し適切な処置を行うこと。
- 4) **糖尿病，糖尿病の悪化，高血糖**：糖尿病，糖尿病の悪化あるいは高血糖があらわれることがあり，昏睡，ケトアシドーシスを伴う重篤な症例も報告されているので，血糖値や尿糖に注意するなど観察を十分に行い，異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

### (3) その他の副作用

	頻度不明
生殖器官	インポテンス，性欲低下等
過敏症 <sup>注1)</sup>	発疹，そう痒等
肝臓 <sup>注2)</sup>	肝機能異常等
腎臓 <sup>注3)</sup>	BUN 上昇，クレアチニン上昇等
電解質代謝 <sup>注4)</sup>	浮腫，体重増加等
循環器 <sup>注3)</sup>	動悸，心悸亢進，胸内苦悶，息切れ等
血液	貧血
消化器	胃部不快感，悪心，便秘，下痢，食欲不振，口渇，嘔吐，腹痛等
精神神経系	頭痛，眠気等
泌尿器	頻尿，尿道不快感，下腹部痛等
脂質代謝	中性脂肪上昇
内分泌	女性型乳房，血中 FSH，LH，テストステロン値の低下，プロラクチン値の上昇
皮膚	脱毛
その他	けん怠感，微熱，発汗，肥満

注1：発現した場合には投与を中止すること。

注2：肝機能検査値に注意するなど観察を十分に行い，異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

注3：発現した場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

注4：観察を十分に行い，発現した場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

**(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧**

該当資料なし

**(5) 基礎疾患，合併症，重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度**

該当資料なし

**(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法**

**その他の副作用**：過敏症（発疹，そう痒等）が発現した場合には投与を中止すること。

**9. 高齢者への投与**

高齢者への投与の際には用量並びに投与間隔に留意するなど慎重に投与すること。[一般に高齢者では生理機能が低下していることが多いため，血中濃度が持続するおそれがある。]

**10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与**

該当記載事項なし

**11. 小児等への投与**

該当記載事項なし

**12. 臨床検査結果に及ぼす影響**

該当資料なし

**13. 過量投与**

該当資料なし

**14. 適用上の注意**

**薬剤交付時**：PTP 包装の薬剤は PTP シートから取り出して服用するよう指導すること。  
(PTP シートの誤飲により，硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し，更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

**15. その他の注意**

ラット，ウサギ及びイヌにおいて精子形成異常が認められるという報告がある。  
また，副腎皮質はラット及びイヌでは萎縮するという報告があるが，モルモットでは萎縮しないという報告がある。

**16. その他**

該当記載事項なし

## IX. 非臨床試験に関する項目

### 1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験 (「VI. 薬効薬理に関する項目」参照)

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

### 2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

## X. 管理的事項に関する項目

### 1. 規制区分

製剤	クロルマジノン酢酸エステル錠 25mg「日医工」	処方箋医薬品 <sup>注)</sup>
有効成分	クロルマジノン酢酸エステル	なし

注) 注意-医師等の処方箋により使用すること

### 2. 有効期間又は使用期限

外箱等に表示の使用期限内に使用すること (3年: 安定性試験結果に基づく)

### 3. 貯法・保存条件

室温保存

### 4. 薬剤取扱い上の注意点

#### (1) 薬局での取り扱い上の留意点について

該当資料なし

#### (2) 薬剤交付時の取扱いについて (患者等に留意すべき必須事項等)

くすりのしおり: 有り

(「VIII. 安全性 (使用上の注意等) に関する項目」の項を参照)

#### (3) 調剤時の留意点について

該当記載事項なし

### 5. 承認条件等

該当しない

### 6. 包装

PTP	バラ
100錠 (10錠×10)	500錠
500錠 (10錠×50)	

### 7. 容器の材質

PTP: ポリ塩化ビニルフィルム, アルミニウム箔

バラ: ポリエチレン・ポリプロピレンフィルムの袋

### 8. 同一成分・同効薬

同一成分: プロスタール錠 25

### 9. 国際誕生年月日

不明

### 10. 製造販売承認年月日及び承認番号

	承認年月日	承認番号
クロルマジノン酢酸エステル錠 25mg「日医工」	2013年2月15日	22500AMX00443000

旧販売名	承認年月日	承認番号
レコルク錠 25mg	2009年7月1日	22100AMX01772000

旧販売名	承認年月日	承認番号
レコルク錠	1987年5月23日	(62AM)762

**11. 薬価基準収載年月日**

	薬価基準収載年月日
クロルマジノン酢酸エステル錠 25mg「日医工」	2013年6月21日

旧販売名	薬価基準収載年月日
レコルク錠 25mg	2009年9月25日

旧販売名	薬価基準収載年月日
レコルク錠	1987年10月1日

**12. 効能又は効果追加，用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容**

該当しない

**13. 再審査結果，再評価結果公表年月日及びその内容**

該当しない

**14. 再審査期間**

該当しない

**15. 投与期間制限医薬品に関する情報**

本剤は，投薬期間制限の対象となる医薬品ではない。

（「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目」の項を参照）

**16. 各種コード**

	薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード	HOT(9桁) コード
クロルマジノン酢酸エステル錠 25mg「日医工」	2478001F2012 (統一名収載医薬品)	620536509	105365423

旧販売名	薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード	HOT(9桁) コード
レコルク錠 25mg	2478001F2012 (統一名収載医薬品)	620536523	105365423

**17. 保険給付上の注意**

本剤は保険診療上の後発医薬品である。



## **X I. 文献**

### **1. 引用文献**

- 1) 日医工株式会社 社内資料：安定性試験
- 2) 日医工株式会社 社内資料：溶出試験
- 3) 第十七改正日本薬局方解説書，C-1776，廣川書店，東京（2016）
- 4) 日医工株式会社 社内資料：生物学的同等性試験

### **2. その他の参考文献**

なし

## **X II. 参考資料**

### **1. 主な外国での発売状況**

なし

### **2. 海外における臨床支援情報**

なし

## **X III. 備考**

### **その他の関連資料**

なし

付表 1-1

薬食発 1121 第 2 号（平成 26 年 11 月 21 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分 含有製剤 (先発医薬品)	その他の医薬品 (後発医薬品)	剤形追加に係る 医薬品 (後発医薬品)
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 製造方法並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定及び物理化学的性質等	○	×	×
	2 製造方法	○	△	○
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	△
	2 苛酷試験	○	×	△
	3 加速試験	○	○	○
ニ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 副次的薬理・安全性薬理	○	×	×
	3 その他の薬理	△	×	×
ホ 吸収, 分布, 代謝, 排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
	6 その他の薬物動態	△	×	×
ヘ 急性毒性, 亜急性毒性, 慢性毒性, 催奇形性その他の毒性に関する資料	1 単回投与毒性	○	×	×
	2 反復投与毒性	○	×	×
	3 遺伝毒性	○	×	×
	4 がん原性	△	×	×
	5 生殖発生毒性	○	×	×
	6 局所刺激性	△	×	×
	7 その他の毒性	△	×	×
ト 臨床試験の成績に関する資料	臨床試験成績	○	×	×
チ 法第五十二条第一項に規定する添付文書等記載事項に関する資料	添付文書等記載事項	○	○	○

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される

付表 1-2

薬食発第 0331015 号（平成 17 年 3 月 31 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分 含有製剤 (先発医薬品)	その他の医薬品 (後発医薬品)	剤形追加に係る 医薬品 (後発医薬品)
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 製造方法並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定及び物理化学的性質等	○	×	×
	2 製造方法	○	△	○
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	△
	2 苛酷試験	○	×	△
	3 加速試験	○	○	○
ニ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 副次的薬理・安全性薬理	○	×	×
	3 その他の薬理	△	×	×
ホ 吸収, 分布, 代謝, 排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
	6 その他の薬物動態	△	×	×
ヘ 急性毒性, 亜急性毒性, 慢性毒性, 催奇形性その他の毒性に関する資料	1 単回投与毒性	○	×	×
	2 反復投与毒性	○	×	×
	3 遺伝毒性	○	×	×
	4 がん原性	△	×	×
	5 生殖発生毒性	○	×	×
	6 局所刺激性	△	×	×
	7 その他の毒性	△	×	×
ト 臨床試験の成績に関する資料	臨床試験成績	○	×	×

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される

付表 1-3

医薬発第 481 号（平成 11 年 4 月 8 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分 含有製剤 (先発医薬品)	その他の医薬品 (後発医薬品)	剤形追加に係る 医薬品 (後発医薬品)
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 物理的・化学的性質並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定	○	×	×
	2 物理的・科学的性質等	○	×	×
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	△
	2 苛酷試験	○	×	△
	3 加速試験	○	○	○
ニ 急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性、催奇形性その他の毒性に関する資料	1 単回投与毒性	○	×	×
	2 反復投与毒性	○	×	×
	3 生殖発生毒性	○	×	×
	4 変異原性	○	×	×
	5 がん原性	△	×	×
	6 局所刺激性	△	×	×
	7 その他の毒性	△	×	×
ホ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 一般薬理	○	×	×
ヘ 吸収、分布、代謝、排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
ト 臨床試験の成績に関する資料	臨床試験成績	○	×	×

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される

付表 1-4

薬発第 698 号（昭和 55 年 5 月 30 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分 含有製剤 (先発医薬品)	その他の医薬品 (後発医薬品)	剤形追加に係る 医薬品 (後発医薬品)
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 物理的・化学的性質並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定	○	×	×
	2 物理的・化学的性質等	○	×	×
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	×
	2 苛酷試験	○	×	×
	3 加速試験	×	○	○
ニ 急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性、催奇形性その他の毒性に関する資料	1 急性毒性	○	×	×
	2 亜急性毒性	○	×	×
	3 慢性毒性	○	×	×
	4 生殖に及ぼす影響	○	×	×
	5 依存性	△	×	×
	6 抗原性	△	×	×
	7 変異原性	△	×	×
	8 がん原性	△	×	×
	9 局所刺激	△	×	×
ホ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 一般薬理	○	×	×
ヘ 吸収、分布、代謝、排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
ト 臨床試験の試験成績に関する資料	臨床試験の試験成績	○	×	○

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される